

令和 6 年度

石巻市教育委員会の活動状況に関する

点検及び評価報告書

(令和 5 年度実績)

令和 6 年 7 月

石巻市教育委員会

令和 6 年度石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価の実施について

1 事業の概要及び目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条では、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」と規定されております。

また、実施に当たっては、「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るもの。」と規定されております。

このことから、教育委員会の活動状況に関する点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を公表することにより、市民に対する教育行政の説明責任を果たすとともに、適正かつ効率的な教育行政の運営に資することを目的とします。

2 根拠法令

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価実施要綱（平成 20 年石巻市教育委員会訓令第 7 号）

3 令和 6 年度 点検評価実施内容について

(1) 点検・評価の対象事業について

令和 5 年度に実施した第 2 期石巻市教育振興基本計画実施計画に定める 105 の事業のうち、安全に安心して学べる教育環境整備の推進から 1 事業、社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実から 5 事業、いのちを守る防災教育の推進から 1 事業、地域ぐるみで子どもを育てる教育活動の推進から 2 事業、豊かな地域社会を育む生涯学習の推進から 2 事業の合計 11 事業を選定しました。

(2) 点検・評価の方法について

選定した事業について事業調査票を作成し、令和 5 年度における実施状況及び成果の自己点検・評価を行い、この結果を基に学識経験者からの意見聴取を実施し、本報告書を取りまとめました。

本報告書については、市議会第 3 回定例会に提出するとともに、市ホームページに掲載し、公表いたします。

令和6年度石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価対象事業一覧

番号	事業名	担当課等	頁
1	奨学金貸与事業	学校教育課	7
2	学校わくわくプラン事業	学校教育課	11
3	学力向上推進事業(一人一人へのきめ細かな指導の推進)	学校教育課	15
4	運動能力向上推進事業	学校教育課	19
5	石巻市学びサポートセンター事業	学校教育課	23
6	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業	学校教育課	27
7	学校防災推進事業	学校安全推進課	31
8	家庭教育支援事業	生涯学習課 石巻中央公民館	35
9	コミュニティ・スクール推進事業	学校教育課	39
10	公民館地域づくり活動連携事業	石巻中央公民館	43
11	石巻市博物館企画展・特別展事業	博物館	47

令和6年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する 点検及び評価説明会・意見聴取会

1 学識経験者への説明会

- (1) 開催日時 令和6年6月10日（月） 午後1時30分
- (2) 開催場所 市役所4階 402会議室
- (3) 事業内容の説明

令和6年度教育委員会の活動状況に関する点検及び評価値調査票に基づき、担当課・館長から説明を行い、説明に基づいて学識経験者からの質問に対し、回答いたしました。

2 学識経験者からの意見聴取会

- (1) 開催日時 令和6年7月1日（月） 午後1時30分
- (2) 開催場所 市役所6階 市議会3・4委員会室
- (3) 学識経験者から、事業ごとに意見を聴取し、その後、全体を通しての総括的意見を聴取いたしました。

3 学識経験者

氏 名	役 職 等
横 江 信 一 氏	石巻専修大学人間学部人間教育学科特任教授
山 田 晴 彦 氏	元石巻市立飯野川中学校長
吉 田 和 美 氏	特定非営利活動法人にじいろクレヨン

4 学識経験者からの意見

○ 総括的意見について

横 江 信 一 氏

東日本大震災から13年の歳月が経過し、アフター・コロナで正常な活動に戻ってきている中で、全体的にきめ細やかな対応がなされてきたことが理解できます。

今回の11事業の総合評価では、達成率が100%以上とするA評価が5事業、達成率が80%以上100%未満とするB評価は6事業であり、全体的に目標値に向けて進捗しており、適切であると判断します。

学校教育課が主担当で取り組んでいる事業が11項目のうち7項目であり、昨年度と同様に多くの事業を運営されていることがうかがえます。学校教育課だけでなく、生涯学習課、学校安全推進課などとの連携や他の部署も含めて、迅速にどう対応していくかが重要だと考えます。そのためには、横断的事业として各課と連携したプロジェクトが前年度踏襲に留まらない新たな創意ある事業となり、新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築にもつながる働き方改革の方策だといえます。

これからの時代は、超スマート社会といわれる Society5.0 の実現に向けた子どもたちの学びのルールづくりというところも重要になってくると思います。また、誰一人残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進として、個別最適・協働的な学びの充実やインクルーシブ教育の推進などが求められています。さらに、子どもたちに確かな学力を身に付けさせていく取組が一層重要になってくるとともに、基本的な人格形成の土台となる非認知能力を育むことが、新たな時代を生きる上での大切な評価の要素になります。

今後は、学校教育と生涯教育が両輪となって、学び続ける子どもたちを育てることが大切です。そのためには、本市のコミュニティ・スクールの推進は不可欠であり、子どもたちにとってのロールモデルを築き上げていく世代間交流を促進し、魅力ある、行きたくなる学校づくりがこれからの石巻市の魅力発信につながるのではないのでしょうか。

また、不登校の抑止力やいじめ防止にもつながり、安心して学ぶ環境づくりになるものと考えます。

一方、人口減少が続く中で、県内唯一の公立の女子高である桜坂高等学校の魅力ある学校づくりを核にした産学官連携による地域振興の視点からも、本市の重要な課題として受け止めなければならないと考えます。

今後、少子化に歯止めがかからない中で、石巻市の教育を取り巻く環境も変化していくことが予想されます。今回の11の事業は、こうした変化を踏まえた上で、第2期石巻市教育振興基本計画に掲げている「豊かな心を育み いのちを未来につなぐまち いしのまき」の基本理念のもと、次世代を担う人材を育て、誰もが生きがいをもって学習し、活動できるまちづくりを目指して教育行政がより一層充実することを心から期待しています。

天然資源を持たない日本にとって唯一の、そして最大の資源は「人間」であることは周知の事実です。

「国づくり」の根本は「人づくり」です。「人づくり」を担う「教育」を大切にしない国は豊かな国にはなり得ません。教育課題も山積している現状で、その教育を担う「教員」を志望する学生が減少し続け、令和5年度採用の教員採用試験の全国平均倍率は3.4倍と過去最低を更新しています。

「教育」に対して逆風が吹いている中、しかも13年前の「東日本大震災」で最大の被害者を記録した石巻市で「豊かな心を育み いのちを未来につなぐまち いしのまき」を基本理念のもと、「教育」を支えている方々に敬意を表します。

石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価について、意見を述べさせていただきます。

一つ目は、事業の目的、活動指標と成果指標の整合性が取れていない事業が散見されます。

教育には数値化して評価することが、どうしてもなじまないということがあると思いますが、成果指標、つまり事業のゴールに園児、児童生徒、教師、学校の具体的な姿が見て取れない事業がいくつかあります。園児、児童生徒がどういう状態になれば、あるいは、何ができれば「成果指標」が達成できたと評価できるのか、具体像を描き示す必要があると思います。具体像があれば、そのために何が必要であるかが見えてくると思います。

二つ目は、対象事業は105事業と多岐にわたり、本市教育行政の「教育」に対する熱意が感じられるところですが、費用対効果の観点からも、担当課を越えた事業の統合などの「スクラップ アンド ビルド」が必要ではないかと思います。事業が105あり、市立の幼稚園、小中学校、高校が53園・校の現状では、各校に予算分配した場合、各学校では消耗品を購入するしかない状態が生まれます。一部ではなく全部の園児、児童生徒に教育支援を届けることが基本ではありますが、予算を重点化して教育効果が上がるような施策も必要ではないかと考えます。

三つ目は、園児、児童生徒に「本物」に触れさせてほしいと切に願います。「本物」の持つ力は絶大で、一人の人間の人生を変える力を持っています。

プロの人材だけではなく、本市には、縄文文化、毛利コレクション、震災遺構など、世界に発信できる「本物」があります。ぜひ活用していただきたいと思います。

四つ目は、本市では、教師の授業力向上を目指し、各学校、各教科での「授業実践研修」を大切にしてきたと思います。教師の「授業力向上」の1丁目1番地は、やはり「授業実践研修」です。そのための研修会や「事業」であってほしいと切に願います。教育委員会指導主事、教科等指導員、その他のマンパワーを活用し、各学校、各教科での「授業実践研修」を活性化していくことが「学力向上」につながると考えます。

五つ目は、本市の大きな教育課題は、「学力（認知学力・非認知学力）の向上」、「運動能力・運動意欲の向上、肥満の問題解消」、「不登校の改善」の3点であると考えます。

課題解決には、教員の資質向上が不可欠であり、そのためには、「授業づくり研修」、「適正な学校規模への統合」、「学校設備の充実」、「予算の集中配置」が必要であると思います。

また、教育委員会と市各課との連携、事業の民間委託など、柔軟で思い切った施策が必要であると思いますが、どれも一朝一夕には達成できない難題ですので、継続して取り組んでいってほしいと思います。

「豊かな心を育み いのちを未来につなぐまち いしのまき」実現のため、園児、児童生徒、教職員、保護者への支援が、より一層充実することを心より願っております。

吉 田 和 美 氏

「豊かな心を育み いのちを未来につなぐまち いしのまき」を基本理念とした教育活動において、子どもたちが心豊かに成長していくための事業に真摯に取り組んでいることに深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染症法の位置付けが5類となって1年が経過し、子どもたちの学校生活も日常が戻ってきておりますが、どの事業においても新たな課題に対して見直しが行われた上で、成果目標を達成されている点は、高く評価ができます。

しかしながら、現在の教育現場において、時間や人員確保、予算の制約もある中で、105もの事業全てに深く取り組むことは、難しさがあるのではないかと感じています。

子どもたちも保護者も日々忙しく、教職員の働き方改革等の課題も生じています。

様々なニーズに対応するための事業計画であることは理解できますが、これほどまでに複雑化していると本質を見失ってしまうリスクが大きいのではないのでしょうか。業務を増やす見直しではなく、減らしていく工夫が求められていると強く思います。

学校現場の現状から特に気になっていることは、子どもたちの自主性、主体性が損なわれているのではないかという点です。子どもたちが何を必要として、何を感じているのかは、子どもたち自身にしかわからないはずです。子どもたちの持つ力を信じて、子どもたちの気持ちに寄り添い、どのように子どもたちの視点を事業に取り入れていけるのかを考慮していただければと思います。

この4月には、子どもの最善の利益を第一として、子どもの視点に立った当事者目線の政策を強力に進めていくことを目指した「こども家庭庁」が発足し、石巻市でも子育て支援課内に「こども家庭センター」が設置、「こどもまんなか」宣言が出されるなど、子どもを取り巻く環境が少しずつ変化しております。

子どもの健やかな育ちを軸に据えながら、市政が各課の枠にとらわれずに協力し合い、学校と家庭、地域社会にある様々な機関や団体等とつながり、連携・協働する姿は、子どもたちの良い手本になると思います。石巻市の未来を担う子どもたちが活躍できる社会実現に向けて、子どもたちを地域で支え、大人も子どもと一緒に学び深め合える体制を構築していただきたいと期待しております。

○ 事業ごとの意見について

点検及び評価の対象事業ごとに記載

第２期石巻市教育振興基本計画実施計画事業調査票

事業番号	1	事業名	奨学金貸与事業			旧番号	16
第２期石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 安全に安心して学べる教育環境整備の推進					
	基本施策	3 学習機会の平等					
	施策の展開	1 就学支援の充実					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	施策の展開	3 有能な人材を育成支援する					
	事業名	奨学金貸与事業					
担当課	学校教育課		事業期間	～		摘要	継続
事業概要（目的）							
石巻市奨学金貸与条例に基づき、経済的理由により修学困難な生徒及び学生に学資を貸与し、有能な人材の育成を図る。							
事業効果							
修学困難な生徒及び学生に教育の機会を与えている。							
現状と課題							
奨学金貸与事業については、国や他団体等でも実施しており、応募者数が年々減少してるため、利用者の増加を図る方策を検討していく必要がある。							
事業の実施内容			年度別事業計画				
			R4	R5	R6	R7	R8
奨学金の貸与			実施				▶
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標		回	—	3	3	3	3
年度内に奨学生を募集する回数							
成果指標		人	—	10	11	12	13
奨学生採用者数							
備考	令和５年度において活動指標及び成果指標を見直し						

実施状況及び評価(CHECK)									
令和5年度の事業実施状況			【第1次募集】 奨学生選考委員会：令和5年4月14日開催 応募者：8名（採用8名） 【第2次募集】 奨学生選考委員会：令和5年9月1日 応募者：3名（採用3名） 【第3次募集】※次年度の予約採用 奨学生選考委員会：令和5年12月7日 応募者：4名（採用4名）						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	年度内に奨学生を募集する回数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	回	—	3	3	3	3	A
		実績	回	2	3				
		達成率	%	—	100.0%				
	成果指標	指標名	奨学生採用者数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	人	—	10	11	12	13	A
		実績	人	8	15				
		達成率	%	—	150.0%				
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価		
							A		
取組の成果及び評価の理由		令和5年度から次年度に向けた予約採用として第3次募集を実施したこともあり、採用者数は増加した。学資の貸与が必要な学生に対し支援することができたと考える。							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		国の施策である「高等教育の修学支援新制度」が令和6年度より対象範囲が拡大されることや、給付型奨学金や大学等の授業料の免除・減免制度の活用により、貸与型奨学生への志願者は減少傾向にある。国等の支援制度の動向を踏まえながら、学生のニーズに合った支援策や制度周知方法の検討が必要である。							
今後の対応方針		令和6年度についても、進学先が決定していない状況での応募が可能な予約採用を実施する。広く利用者に周知を図り、奨学金の活用機会を提供していく。							
令和6年度の見込み		新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了							
事業費（決算額）		年度	R4	R5	R6	R7	R8		
		金額（千円）	19,639	17,123					

番号 1 奨学金貸与事業

学識経験者からの意見	【横江信一氏】 経済的理由により修学が困難な学生に対し、教育の機会均等及び人材育成の観点から経済的支援を行う重要な教育施策であり、今後も継続していただきたい事業です。 「有能な人材の育成を図る」ことが事業概要の目的として示されていることを踏まえ、石巻市の産業を担う若者の地元定着に着目し、地元企業と連携して、市内の企業へ就職することを条件にした奨学金の貸与条件や返還方法の緩和など検討してはどうでしょうか。 また、家計急変などの事情で緊急での申請があった場合には、随時審査を行うなどの対応も検討していただきたいと思います。 今後は、より活用しやすい制度への見直しを検討し、返還の負担軽減にも努めていただきたいと考えます。 【山田晴彦氏】 経済的に困窮している家庭が増加しているというのは、周知の事実であります。意欲や能力のある生徒が、経済的な理由で進路選択の幅が狭まることのないよう、奨学金の給付形態の多様性、給付額、給付者数等を確保して、今後とも継続していただきたいと思います。 石巻市教育振興基本計画の施策目標の「安全に安心して学べる教育環境整備の推進」には26事業がありますので、今後、全ての児童生徒が安全に安心して学べる環境整備に関わる事業に力と予算を割いていただければと考えます。 【吉田和美氏】 今年度、活動指標と成果指標が募集回数と奨学生採用者数に見直しが行われ、総合評価がCからAとなっていますが、利用状況から情報の周知方法や手続きの煩雑さが課題となると思いました。 また、ホームページからも奨学金貸与事業で検索すると、令和5年度と令和6年度の募集情報の両方が出てきて、混乱される方もいらっしゃるのではないのでしょうか。 昨今の物価高騰の影響から、子育て世帯の金銭的な負担は大きく、子どもたちの学びを継続させていくためにも大切な事業になると思いますので、より利用しやすいものになるよう検討を重ねていただきたいです。 また、教育委員会の事業ではありますが、利用したい人たちへ情報を届けていくためには文書配布だけでなく、福祉部門や民間団体とも連携し、周知の協力が得られる事業となることを期待します。
-------------------	--

第2期石巻市教育振興基本計画実施計画事業調査票

事業番号	2	事業名	学校わくわくプラン事業			旧番号	29
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	基本施策	1 確かな学力の向上					
	施策の展開	1 基礎・基本の確実な定着					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	施策の展開	1 学校教育の充実を図る					
	事業名	学校わくわくプラン事業					
担当課	学校教育課		事業期間	R3 ～		摘要	継続
事業概要（目的）							
児童生徒の非認知能力を高め、主体的に生きる力を育成するために、学校と家庭・地域が連携・協働して、「わくわく感」の持てる取組を運営する。							
事業効果							
児童生徒が、自己に内在しているよさや可能性に自ら気づき、引き出し、伸ばすと同時に、社会生活で必要となる社会的資質・能力を身につけることが期待される。							
現状と課題							
【現状】これまで、子どもたちの学習や活動意欲を高めるため、教員の指導力向上研修を積み重ねてきた。令和4年度「全国学力・学習状況調査」での「学校生活についてのアンケート」では、「学校が楽しいですか」の質問において、本市の肯定的な回答は91.7%である。また、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問において、本市の肯定的な回答は全国や県を上回っている。 【課題】令和4年度「全国学力・学習状況調査」では、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問において、肯定的な回答は全国や県を下回っている。自己に内在しているよさに気づき、自信を育む取組が重要である。							
事業の実施内容			年度別事業計画				
			R4	R5	R6	R7	R8
学校と家庭・地域が連携した事業			実施				
推進地区による取組			実施				
フェスティバル等の開催			実施				
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標		回	—	1	1	1	2
子どもたちの学習や活動意欲を高める事業（フェスティバル等）の実施回数							
成果指標		%	—	84.0	86.0	88.0	90.0
学校が楽しいと感じている児童生徒の割合							
備考	令和5年度において活動指標及び成果指標を見直し						

実施状況及び評価(CHECK)									
令和5年度の事業実施状況			1 栗原慎二教授を招聘した研修を開催（子どものやる気や自信をはぐくむ研修） 2 11月、小学生対象のわくわくフェスティバルとして、プロダンス講師によるダンスフェスティバルを開催。 3 タブレットドリルの活用と主体的な学びを促す「タブドリ祭り」を開催。						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	子どもたちの学習や活動意欲を高める事業（フェスティバル等）の実施回数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	回	—	1	1	1	2	A
		実績	回	1	1				
		達成率	%	—	100.0%				
	成果指標	指標名	学校が楽しいと感じている児童生徒の割合						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	—	84.0	86.0	88.0	90.0	A
		実績	%	91.0	92.2				
		達成率	%	—	109.8%				
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価		
							A		
取組の成果及び評価の理由			タブレットドリルの活用が促進されたり、児童生徒の「学校」に対する肯定的な回答が増えている反面、不登校児童生徒数は増加しており、更なる事業実施に向けた工夫・改善が必要である。						
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題			学校の教育活動の範囲を越えた「自信」を育む重要性を意識し、更に多くの児童生徒が「学ぶ土台」として意欲や、自信を高めたりできるような事業内容の工夫・改善が必要である。						
今後の対応方針			学校わくわくプラン推進委員会を中心に、非認知能力を土台として協働的な取組を促せるような「わくわくフェスティバル」を企画・運営する。						
令和6年度の見込み			新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費（決算額）			年度	R4	R5	R6	R7	R8	
			金額（千円）	1,467	1,244				

番号2 学校わくわくプラン事業

学識経験者からの意見	【横江信一氏】 目標は、十分達成されていると考えます。そこで、「子どものやる気や自信を育む研修」と「タブドリ祭り」について、どんな成果があったのか、検証していただきたいと思います。 学校わくわくプラン事業は、学校生活を通した児童生徒一人一人の非認知能力を高め、学校と家庭・地域が連携・協働の視点で地域も巻き込みながら、一つのプランになっていくのではないかと考えます。 また、非認知能力は、偏差値など数値化しにくい児童生徒個々の内面的な能力として考える必要があります。 そこで、コミュニティ・スクールも含めたところで、各地域の中で「わくわくプラン」がどのように達成されたか、成果につながるものが全体につながればいいのかと思います。 なお、成果指標の「学校が楽しいと感じている児童生徒の割合」の達成率は109.8%で総合評価Aになっていますが、不登校児童生徒が増加している現状から、「学校が楽しい」と認識している学校の「楽しい」と捉えている場面を分析してみることも検討していただきたいと考えます。 【山田晴彦氏】 わくわくプラン事業の一つとして、プロダンス講師を招へいしてのフェスティバルへの参加人数が8名というのは、一部への好影響としか言わざるを得ません。 やはり全ての児童生徒にとって「わくわく」する事業を児童生徒から吸い上げる必要があるのではないのかと感じました。 また、児童生徒に本物に触れさせてほしいと思います。毎年全学校にプロと呼ばれる人を招へいすることは、不可能であると思いますので、年度ごと、あるいは学校や地域ごとに順番に回していてもよいので、ぜひ本物に触れさせる機会を与えていただく検討をしていただきたいと思います。 成果指標の学校が楽しいと感じている生徒の割合が非常に高いということは、すばらしい成果ではありますが、一方自己肯定感が全国・県平均より低い状態であります。このギャップの分析と、それに対する施策に重点を置いていくことも必要ではないかと思います。 さらに、児童生徒の高まった学びに向かう力（非認知能力）を、どのように点数として現れる学力に結び付けていくかという難しい課題に対しての戦略、事業が必要ではないかと感じます。 また、学力向上には広範囲にわたる様々な取組が必要であると思いますので、他の学力向上施策と連携し、相乗効果を生むような事業設計が必要であると思います。
-------------------	--

【吉田和美氏】

事業の目的に非認知能力の向上が追記、評価指標の見直しも行われ、総合評価がAとなった点は評価できます。

非認知能力の向上については、評価されない安全安心な環境が大切になるのではと感じています。

子どもたちは「遊び」の中から多くのことを学んでいくと認識しております。子どもたちがチャレンジしたい気持ちに寄り添い、認めてもらえる経験から育まれていくものであって、大人が非認知能力を伸ばそうと先回りし過ぎると、必要以上に誘導することにもつながってしまうため、目的の趣旨が変わってしまうのではと考えます。

イベント型の取組では、限定的な参加になると推測しますので、今後は、教職員、保護者や地域の方々の理解を深めながら、主役である子どもたちの声を事業計画に反映していただき、学校活動の中で実施される取組として改善され、子どもたちが笑顔で過ごせる時間が増えていくことを期待します。

第２期石巻市教育振興基本計画実施計画事業調査票

事業番号	3	事業名	学力向上推進事業（一人一人へのきめ細かな指導の推進）			旧番号	33	
第２期石巻市教育振興基本計画	施策目標	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
	基本施策	1 確かな学力の向上						
	施策の展開	4 指導方法の工夫・改善						
【総合計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち						
	基本施策	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
	施策の展開	1 学校教育の充実を図る						
	事業名	学力向上推進事業						
担当課	学校教育課		事業期間	H20	～	摘要	継続	
事業概要（目的）								
児童生徒の実態把握を基に、学力の定着状況に応じた授業改善に取り組み、児童生徒一人一人に応じた指導の充実を図る。								
事業効果								
全国学力・学習状況調査等の分析結果に基づいた、児童生徒一人一人へのきめ細かな指導が推進され、児童生徒の自己調整力が向上する。								
現状と課題								
全国学力・学習状況調査の結果を基に課題を明らかにし、改善の手立てを講じている学校の割合は100%である。しかし、令和５年度の結果は、改善傾向が見られるものの、本市の平均正答率は全国や県を下回った。 市内全児童生徒を対象とした標準学力調査の実施・分析を行い、児童生徒一人一人の課題を明らかにし、個に応じた指導の充実を図るとともに、教育相談等を実施することにより、児童生徒一人一人の自己調整力を高め、学力向上を目指す。								
事業の実施内容				年度別事業計画				
				R4	R5	R6	R7	R8
標準学力調査の分析・考察・課題把握				実施				→
市内小・中学校における年２回以上の教育相談の実施				実施				→
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値	
活動指標		回	—	3	3	3	3	
市教委による学習指導に係る教職員研修回数								
成果指標		%	—	75.0	76.0	77.0	78.0	
「難しい問題にもあきらめず取り組んでいる」と答えた児童生徒の割合（上段：小学校、下段：中学校）								
			—	66.0	67.0	68.0	69.0	
備考	令和５年度において活動指標及び成果指標を見直し							

実施状況及び評価(CHECK)									
令和5年度の事業実施状況			市内全児童生徒を対象とした標準学力調査の実施・分析を行った。 市内全児童生徒・保護者を対象とした教育面談を実施した。 マルチレベルアプローチを基盤とした、授業づくりの工夫を推進した。						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	市教委による学習指導に係る教職員研修回数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	回	—	3	3	3	3	A
		実績	回	6	6				
		達成率	%	—	200.0%				
	成果指標	指標名	「難しい問題にもあきらめず取り組んでいる」と答えた児童生徒の割合（上段：小学校、下段：中学校）						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	—	75.0	76.0	77.0	78.0	A
			—	66.0	67.0	68.0	69.0		
		実績	%	—	86.6				
	達成率	%	—	115.5%					
	【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F								
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価		
							A		
取組の成果及び評価の理由		教職員研修の充実により、児童生徒の学習に取り組む気持ちも高いものとなった。							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		児童生徒一人一人の課題を明らかにした上で、個に応じた指導や協働的な学びの質を一層高め、学力向上を図る必要がある。 各種学力調査結果より、国語より、算数・数学において全国との乖離が見られる。更なる手立てを講じる必要がある。							
今後の対応方針		各種学力調査を基にしたきめ細かな指導を工夫していく。 家庭へ具体的な働きかけを行っていく。							
令和6年度の見込み		新規 継続 (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了							
事業費（決算額）		年度	R4	R5	R6	R7	R8		
		金額（千円）	17,549	23,965					

番号 3 学力向上推進事業（一人一人へのきめ細かな指導の推進）

学識経験者からの意見	【横江信一氏】 市内小中学校においては、特色ある学校教育を推進しつつ、「生きる力」を育成するとともに、児童生徒一人一人に確かな学力を付ける取組がなされています。 特に、児童生徒一人一人に応じた教育相談の実施は効果的だと考えますので、さらに充実を図っていただき、将来に向けた目標設定の具現化に努めていただきたいと思います。 総合評価はAになっていますが、各種学力調査結果より、国語より算数・数学において全国との乖離が見られていることから、学力は知識・技能、思考力・判断力・表現力だけでなく、やり遂げる力等の非認知能力や主体的に学習に取り組む態度が重要です。個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが必要なので、さらに教職員研修の充実を図っていただきたいと思います。 【山田晴彦氏】 一人一人へのきめ細かな指導を実現するためには、落ちこぼれをつくらず、しかもできる生徒には足踏みをさせないという基本理念を全教職員で共有し、授業を設計し、実践を重ねていく必要があるのではないのでしょうか。 ぜひ、きめ細やかな指導を実践している教員をリストアップして、日常的に見て学ぶ機会を増やしていただきたいと思います。 教師の指導力の向上を成し遂げるためには、教職員のたゆまぬ研さんと努力の積み重ねしかありません。校内や教科研究会等で授業を公開して、評価する、される機会を持つことが、不可欠なのではないかなと思います。 また、一人一人へのきめ細やかな指導の達成のためには、iPad の導入をはじめ、校内の Wi-Fi 環境の整備、各教室へのプロジェクターの設置などのハード面の整備が、不可欠ではないかと思います。他の事業と統合するなど、予算を重点化し、教育環境の整備を整えていただきたいと思います。 なお、活動指標と成果指標の整合性については、さらに検討をしていただきたいと思います。 【吉田和美氏】 学校わくわくプランの目的である非認知能力の向上と、主体的に学習に取り組むことにつながっていく認知能力（学力向上）の両輪で取り組まれている重要な事業になると考えています。 全校での保護者面談を実施し、家庭への学力向上に対する意識付けにも効果があったと考えます。また、教職員研修も目標回数を上回る 6 回実施している点も高く評価できると思います。
-------------------	---

今後の課題としては、学力の学校格差が生じている点が気になりました。教職員に対する勉強会の実施や学び合いの取組事例を共有するなど、まずは中学校区でのつながりを深め指導力の向上に努めていただきたいと思います。

また、授業数の見直しが行われていることや、学校によって定期テストの回数や内容が変化している点も気になります。全て足並みをそろえる必要はないと考えておりますが、子どもたちにとって不利益にならない判断をお願いしたいです。

第2期石巻市教育振興基本計画実施計画事業調査票

事業番号	4	事業名	運動能力向上推進事業			旧番号	43
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	基本施策	3 健やかな体の育成					
	施策の展開	1 体力・運動能力の向上					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標						
	基本施策						
	施策の展開						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H20	～	摘要	継続	
事業概要（目的）							
自発的に運動しようとするきっかけづくりを行うことで、運動することに対する意識を涵養し、児童生徒の基礎体力の向上を図るとともに、体を動かすことが「楽しい」と感じる児童生徒の育成を図る。							
事業効果							
体力・運動能力向上に向けた取組により、運動に親しみながら、目標に向かって継続的に努力しようとする児童生徒を育成するとともに、児童生徒の基礎体力の向上を図ることができる。							
現状と課題							
各学校において、実態に応じたアクションプランを作成し、体力・運動能力向上対策を講じているが、全国体力・運動能力・運動習慣等調査では、全国平均を下回っている状況である。学校での授業のほか、家庭や地域においても、子供たちが自発的に体を動かすことができる環境づくりが必要である。石巻市は県内他の市町村と比較し肥満度が高いが、体を動かすきっかけができることにより、その改善にもつながると考える。							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
体力・運動能力向上に向けた継続的な取組の推進		実施					➡
指 標 名	単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値	
活動指標	時間（分）	54	55	56	57	58	
体育以外で1日あたり運動・スポーツする時間 （上段：小学5年生、下段：中学2年生）		105	106	107	108	109	
成果指標	%	—	84.0	85.0	86.0	87.0	
運動が楽しいと思う児童生徒の割合（上段：小学5年生、下段：中学2年生）		—	87.0	88.0	89.0	90.0	
備考	令和5年度において成果指標を見直し						

実施状況及び評価 (CHECK)									
令和５年度の事業実施状況			各校で児童生徒の実態に応じた体力・運動能力向上に関する重点目標を定め、体育の時間や業間の時間等を活用した継続的かつ創意工夫を行った取組が見られた。その取組をしない学校に情報として提供し、児童生徒の体力向上に向けた教職員の意識高揚につなげている。						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	体育以外で１日あたり運動・スポーツする時間（上段：小学５年生、下段：中学２年生）						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	時間（分）	54	55	56	57	58	B
				105	106	107	108	109	
		実績	時間（分）	50.5	52.5				
				104.6	100.2				
		達成率	％	93.5%	95.4%				
				99.6%	94.5%				
	成果指標	指標名	運動が楽しいと思う児童生徒の割合（上段：小学５年生、下段：中学２年生）						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	％	—	84.0	85.0	86.0	87.0	A
				—	87.0	88.0	89.0	90.0	
		実績	％	—	91.2				
				—	90.0				
		達成率	％	—	108.5%				
				—	103.4%				

【事業評価基準】			達成率が１００％以上・・・A 達成率が８０％以上１００％未満・・・B 達成率が６０％以上８０％未満・・・C 達成率が４０％以上６０％未満・・・D 達成率が４０％未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F					
----------	--	--	---	--	--	--	--	--

【事業全体の評価】		総合評価
※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載		B

取組の成果及び評価の理由	体力合計点については、中学校２年生男子は全国平均を上回ったが、中学校２年生女子、小学校５年生男子女子は体力低下の傾向が続いている。今後もより創意工夫をしながら運動量の確保や体育の授業の充実等に努める必要がある。
--------------	---

課題・改善 (ACTION)	
事業を進める上での課題	震災以降の校庭の共用やスクールバスでの通学による運動機会の減少、コロナ禍による体育や部活動の活動制限等により、持久力の不足、肥満傾向の高さ、生活習慣等に課題がある。
今後の対応方針	体育の授業の充実と体育以外の運動機会の設定、食や健康に関する指導・支援の充実、生活習慣の改善を、学校、家庭、地域、教育委員会が連携を密にし、具体的に目標を決め取り組んでいく。
令和６年度の見込み	新規 継続 (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了

事業費（決算額）	年度	R4	R5	R6	R7	R8	
	金額（千円）	0	0				

番号4 運動能力向上推進事業

学識経験者からの意見	【横江信一氏】 体力低下、肥満傾向が顕著になっている中で、外遊びの減少やオンラインゲームで時間を費やすなど、身体を動かす時間が少なくなってきたと考えられます。 具体的な数値の向上が目標ではありますが、継続することにより、体力や運動能力の向上につながると考えます。また、最近では、持久走大会を取りやめた学校もあり、地域で体力向上を推進していくことが求められます。 運動を積極的に行う子と、そうではない子の二極化が進み、子どもたちの外遊びや運動時間が減少していると考えます。体力・運動能力・運動習慣等調査において、全国平均を下回っており、原因としては、児童生徒が学校の体育の授業以外で体を動かす機会が減っていることが考えられます。 例えば、学校独自の取組としてスポーツチャレンジウィークやスポーツランキングへの参加、持久走の時間の確保などの継続的な取組を期待したいです。 今後は、体育授業などで工夫された体力向上策が講じられ、児童生徒の主体性を伸ばし、さらに体力向上に役立っていくと考えられます。 【山田晴彦氏】 児童生徒の全国体力・運動能力、運動習慣等調査が全国平均以下と肥満度の問題は、学力の問題と同様に東日本大震災以降、顕著になっている部分ではないかと思います。 学校わくわくプラン事業のところでも申し上げましたが、きっかけづくりということで、児童生徒が本物に触れ合う機会の設定がとても重要になるのではないかと思います。 児童生徒に人気のあるプロ選手、パラアスリート等を招へいして、一緒に競技をしたり、話をしたりする機会を持つことは、子どもたちにとっても自発的に運動に取り組むきっかけになると考えます。 【吉田和美氏】 成果指標が事業の目的に沿う内容として、運動が楽しいと思う生徒の割合に見直され、総合評価がAとなっている点は評価いたします。 課題にもあるように体育以外での運動時間に関して、部活動時間の制限やスポ少参加者の減少、登下校の親の送迎が増加、下校後の過ごし方などで、日常的に運動する時間を確保することが難しくなっていると感じています。 子どもの健全な発育・発達のためには、幼少期から休養・栄養・運動を中心とする健康的な生活習慣とそのリズムを身に付け、維持することや日常的な外遊びが有効であることが研究結果からも分かっております。 石巻専修大学との協働プロジェクトやタブレットを活用した取組と並行して、公園の整備やプレーパーク事業との連携、高校生、大学生、プレーリーダーの育成など、地域の協力を得ながら、子どもが自主的、自発的に外遊びができる環境を整えていく取組も行っていきたいと思います。
-------------------	--

第２期石巻市教育振興基本計画実施計画事業調査票

事業番号	5	事業名	石巻市学びサポートセンター事業			旧番号	66
第２期石巻市教育振興基本計画	施策目標	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	基本施策	6 不登校児童生徒対策の充実					
	施策の展開	3 不登校児童生徒への支援の充実					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	施策の展開	1 学校教育の充実を図る					
	事業名	石巻市学びサポートセンター事業					
担当課	学校教育課		事業期間	R5	～	摘要	新規
事業概要（目的）							
学校生活への不安や心配がある児童生徒の教育相談を、電話相談、来所相談、訪問相談などニーズに合わせて実施する。また、不登校等児童生徒の自立並びに学校生活への自発的な復帰を促進するための通所による学習支援・適応指導の実施や学校生活への不安や心配がある児童生徒に対して、アウトリーチによる生活及び学習への支援・助言を実施する。							
事業効果							
これまでの通所型の適応指導教室、アウトリーチによる心のサポートの機能に、学校生活に不安や悩みを抱える児童生徒、保護者の相談・支援を行う機能を加えて総合的に児童生徒の学びのサポートを行うとともに、情報を一元化して、学校、関係機関との連携を迅速に進め、よりスムーズに対応ができるようになる。							
現状と課題							
適応指導教室通所児童生徒の中で、発達に障害をもつ割合は高まりつつある。また、家から出られず通所できない児童生徒に対する家庭や学校への訪問指導など、より手厚い支援を必要とする児童生徒が増加しており、対応する人員の充実が必須である。適応指導教室と石巻市子どものサポートハウスの機能を統合することで、児童生徒の実態に応じた通所支援、訪問支援、相談支援に臨機応変に対応できることが期待される。石巻市学びサポートセンターを家庭や学校に周知し、積極的に活用してもらうことが必要である。							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
児童生徒との教育相談、及び学校、保護者との連携		計画	実施				→
児童生徒の実態等に応じた学習支援		計画	実施				→
児童生徒へのアウトリーチによる学習、生活への支援		計画	実施				→
人間関係、仲間づくりを目的とした体験活動の充実		計画	実施				→
指 標 名	単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値	
活動指標	日	—	234	234	234	234	
学びサポートセンター開所日数							
成果指標	%	—	80.0	80.0	80.0	80.0	
通所児童生徒の再登校率（部分登校含む）							
備考	令和５年度から事業実施のため、令和４年度は活動指標及び成果指標なし						

実施状況及び評価(CHECK)									
令和5年度の事業実施状況			学びサポートセンター（COIL）の運営 相談活動「相Talk」の実施 学校支援「心Reach」の運営 訪問型学習支援「学Base」の実施						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	学びサポートセンター開所日数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	日	—	234	234	234	234	B
		実績	日	—	227				
		達成率	%	—	97.0%				
	成果指標	指標名	通所児童生徒の再登校率（部分登校含む）						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	—	80.0	80.0	80.0	80.0	B
		実績	%	—	66.7				
		達成率	%	—	83.4%				
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由			開所日数に関しては、子供のニーズに合わせてできるだけ多くの日数を開所することに努めた。通所児童生徒の再登校は厳しい数値であるものの、不登校状態にある児童生徒や学習に不安を抱える児童生徒への学習機会の確保と社会的自立を目指す支援を行う場として、学びサポートセンターのニーズは高まることが考えられる。						
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題			学びサポートセンターの認知度が高まったことで、利用者が増加しており、支援員の増員が必要である。また、フリースクール等と連携を図ることにより、不登校状態にある児童生徒に対する情報を一元化し、効果的な支援策を講ずる必要がある。						
今後の対応方針			通所児童生徒及び別室登校を行う児童生徒への支援の状況を見ながら、必要に応じ、指導員の動員を図っていく。						
令和6年度の見込み			新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費（決算額）			年度	R4	R5	R6	R7	R8	
			金額（千円）	—	19,211				

番号5 石巻市学びサポートセンター事業

学識経験者からの意見	【横江信一氏】 石巻市立小・中学校に在籍する児童生徒、保護者の方の学校生活への悩みや気になることについて支援しており、通所支援・訪問支援・相談支援により、充実した運営が行われていると考えます。 本事業への効果的な支援としては、学級担任、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の学校関係者が中心になり、児童生徒や保護者と話し合うなどして「児童生徒理解・支援シート」を作成することが望ましいとされています。これらの情報が学びサポートセンターと共有されて初めて支援効果が期待できるものと考えます。 また、だれ一人取り残さない学びの保障に向けた校内教育支援センターの設置促進と併せて、学びサポートセンターの機能強化につなげていただきたいと思います。 【山田晴彦氏】 適応指導教室等の通所型の支援に加えて、学びサポートセンターのような訪問型、アウトリーチ型の支援に取り組んでいることは、とても大切に重要な施策であると評価をしています。 特に、不登校児童生徒の母親への相談、支援というのは不可欠なのではないかと思います。 私も学校現場にいましたので、不登校生徒の母親が、悩んでいたり、病んだりしているケースが多かったのを覚えております。子どもへの支援、プラス母親への支援ということが大切ではないかと思います。 また、これらの支援を受けない児童生徒、いわゆる引きこもり型の不登校児童生徒がいることも各自治体で明らかになっておりますので、それらの児童生徒家庭に訪問という形で手を差し伸べていくということが大切になるのではないかなと思います。 【吉田和美氏】 学びサポートセンターCOIL（コイル）の運営により、子どもたちが安心して過ごせる居場所が創出されたことを高く評価します。ニーズも高く利用者が倍増となっていることで、指導員や日程、場所の確保が急務の課題となっていることもわかりました。また、学校に通えていない子どもたちとのつながりが全く取れないケースがゼロということも、状況改善に向けて各学校で試行錯誤していただいているからこそその成果だと思います。 全ての子どもたちに、差別なく公平に教育を受け学ぶ権利があります。同時に子どもを育てる養育者が支援を受けられることも権利の一つに位置付けられています。発達や学習不安を抱える子どもたちを育てている養育者の時間や精神的な負担も大きくなっていると考えられますので、ニーズを把握しながら、学校に通えていないことを問題行動であると受け取られないよう配慮され、子どもたちの学びの機会が保証されていくこと、フリースクールや自宅学習など学校以外での多様で適切な学習活動が広く実施されることを期待します。
-------------------	--

第２期石巻市教育振興基本計画実施計画事業調査票

事業番号	6	事業名	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業			旧番号	82
第２期石巻市教育振興基本計画		2	社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実				
	基本施策	9	高校教育の充実				
	施策の展開	1	魅力あるカリキュラムの提供、教育内容の充実				
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5	豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち				
	基本施策	2	社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実				
	施策の展開	1	学校教育の充実を図る				
	事業名	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業					
担当課	学校教育課		事業期間	H25	～	摘要	継続
事業概要（目的）							
桜坂高校の教育の三本柱である「品格教育」、「キャリア教育」、「学力保証」の推進及び充実を図り、生徒の進路希望や興味・関心、社会の動向に対応しながら、人間的な成長と品格の涵養に努め、石巻市の未来を担う人材の育成及び輩出を目指す。							
事業効果							
教育の三本柱の推進及び充実により、桜坂高校の魅力がさらに向上することで、募集定員の確保につながるとともに、石巻市の未来を担う人材育成が図られる。							
現状と課題							
少子化の影響があり定員充足率の伸長は難しい状況であるが、進路達成率は高い水準で推移している。今後も魅力ある学校づくり事業を継続し、生徒一人一人が望む多様な進路達成を実現するために、教育の三本柱に係る教育活動を充実させ、「学校の魅力向上」を図るとともに、「学校の魅力発信」に努め、桜坂高校の魅力を石巻市内外に強力にPRしていく必要がある。							
事業の実施内容			年度別事業計画				
			R4	R5	R6	R7	R8
桜坂高校の三本柱の推進に係る各種講座等の実施			実施				
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標		%	—	100	100	100	100
事業の実施状況（各種講座予定回数）に対する実施回数の割合							
成果指標		%	—	100	100	100	100
卒業生徒の進路達成率							
備考	令和５年度において活動指標及び成果指標を見直し						

実施状況及び評価 (CHECK)									
令和5年度の事業実施状況			桜坂高等学校の三本柱の推進に係る各種講座等は13回実施した。 ・品格教育に係る事業(3回):小笠原流礼法指導(全学年:3回) ・学力保証に係る事業(2回):先進校視察(教員研修:2回) ・キャリア教育に係る事業(8回):社会人講話(1回:3学年)、ミライブラリー(1回:1学年)、個人探究テーマ(1回:2学年)、進路ガイダンス(3学年:1回、2学年:3回、1学年:1回)						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	事業の実施状況(各種講座予定回数)に対する実施回数の割合						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	—	100	100	100	100	A
		実績	%	100	100				
		達成率	%	—	100.0%				
	成果指標	指標名	卒業生徒の進路達成率						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	—	100	100	100	100	B
		実績	%	99.2	99.1				
		達成率	%	—	99.1%				
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価 B		
取組の成果及び評価の理由			桜坂高等学校の教育の三本柱「品格教育」「キャリア教育」「学力保証」のうち、特にキャリア教育に係る事業を重点的に進めた。多様な進路を実現するために、特に進路ガイダンスでは、様々な職種で活躍する講師を招聘し、講話をいただき、99%を超える生徒が希望する進路を達成した。						
課題・改善 (ACTION)									
事業を進める上での課題			石巻市内の中学校卒業生数は、平成31年から令和10年までの間に200人程度減少する見込みとなっている。令和5年度入試の石巻地区高校の定員充足率は、77.9%であった。これまで以上に「学校の魅力発信」に努め、市内及び市外からの入学生を増やす必要がある。併せて、入学した生徒が、自分の進路を多様な視点から見詰め、希望する進路を実現するための支援を更に推進する必要がある。						
今後の対応方針			教育課程における両コースの特色を明確にし、地域社会を担う多様な人材の育成を目指す。さらに、地域と連携した探究活動を充実させることで「学校の魅力向上」を図るとともに、中学校・塾の訪問、ホームページの充実、オープンキャンパス、学校公開、ポスターの発行等を通して「学校の魅力発信」に努める。						
令和6年度の見込み			新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費(決算額)			年度	R4	R5	R6	R7	R8	
			金額(千円)	3,302	3,035				

番号6 桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業

学識経験者からの意見	【横江信一氏】 品格教育、キャリア教育、学力保証を教育の三本柱を受け、社会人講話やキャリア教育に係る事業、小笠原流礼法指導など充実した教育活動が展開されていることがうかがえます。さらに、県内唯一の公立女子高校としての価値を石巻圏域にとどまらず、県内外に発信していただきたいと考えます。 特に、定員充足率の伸長が難しい状況にあり、募集定員の確保の観点から、学校運営協議会設置に合わせて、石巻市の未来を担う人材育成が図られるよう特色を打ち出していただきたいと考えます。 【山田晴彦氏】 桜坂高校の教育の三本柱は、すばらしい理念だと思います。 中学生が進路選択をするときに、この三本柱がどのようにプラスに働いて志望してくるのかという調査も必要なのではないかと思います。 それから、中学生の職場訪問と桜坂高校の生徒のインターンシップを同時に受入れてくれる企業を開拓していつてはどうかと考えました。中学生に桜坂高校の生徒が、敬われる、あのようになりたいと思われる場面があると良いのではないかと思います。 桜坂高校の生徒と一緒に職場体験をした中学生が桜坂高校へ進学する、桜坂高校の生徒がインターンシップを受け入れてくれた企業に就職するというようなサイクルが生まれることを期待しています。 桜坂高校の教職員であること、生徒であることを誇りに持ち、市民と積極的に親交を図ってほしいと考えています。 そうすることにより、市民の桜坂高校への信頼が増し、志望倍率も上がってくるのではないかと考えました。 【吉田和美氏】 卒業生の進路達成率がほぼ目標値に準ずるものとなっており、総合評価はBとなっていますが、事業の成果は評価できます。 少子化や市外高校、私立高校への間口も広がり、市内の高校のほとんどの入試状況は定員割れとなっており、今後、入学希望者の増加は難しいのではないかと考えます。 また、現時点で実施されている各種講座等に魅力を感じる中学生はあまり多くないのではないのでしょうか。 今年度からは、コミュニティ・スクールも導入され、若い力が必要とされている地域でのボランティア活動や、小中学生と一緒に活動するプレーリーダーの育成、他事業との連携などでも直接的に桜坂高生が活躍する場を創出していくことも検討できると思います。 石巻市立の強みを活かし、地域とともにある学校と位置付け、興味関心を高められるニーズに沿うカリキュラムとなることで、ますます魅力ある学校となっていくことを期待します。
-------------------	---

第 2 期教育振興基本計画実施計画事業調査票

事業番号	7	事業名	学校防災推進事業			旧番号	86	
第 2 期石巻市教育振興基本計画	施策目標	3 いのちを守る防災教育の推進						
	基本施策	1 防災教育の推進						
	施策の展開	1 防災教育の充実						
【総合計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち						
	基本施策	3 いのちを守る防災教育の推進						
	施策の展開	2 防災教育の充実を図る						
	事業名	防災教育充実事業						
担当課	学校安全推進課	事業期間	H 2 3 ～			摘要	継続	
事業目的								
避難訓練や防災教育副読本等を用いた児童生徒の発達段階に応じた系統的防災教育を実践するとともに、学校防災の充実のために、学校と地域や関係機関等との連携強化を図る。								
事業効果								
児童生徒の実態及び学校の周辺環境に応じた防災教育が実践され、児童生徒の災害対応力が向上するとともに、学校と地域や関係機関等との連携による災害発生時の的確な緊急対応が可能となる。								
現状と課題								
東日本大震災の教訓により、大規模災害時における「自助」、「共助」の力を向上させる防災教育が重要となっている。 今後、震災を体験していない児童生徒及び教職員が増えていく中で、いかに児童生徒らに震災の事実、教訓を語り継いでいくかが課題である。								
事務事業の概要				年度別事業計画				
				R4	R5	R6	R7	R8
防災教育、避難訓練の実施				実施				
防災教育副読本の作成と活用				実施				
学校防災推進会議による地域と連携した学校防災の推進				実施				
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値	
活動指標		%	—	100	100	100	100	
副読本を用いた授業の実施率								
成果指標		%	—	100	100	100	100	
安全に配慮して主体的に行動できる児童生徒の割合								
備考	令和 5 年度において活動指標及び成果指標を見直し							

実施状況及び評価(CHECK)									
令和5年度の事業実施状況			学校防災推進会議「WG3・防災教育」にて会議を実施し、委員で協議しながら防災教育副読本の一部改訂を行った。 市内全小中学校で防災教育副読本を活用した防災教育を実施し、児童生徒の防災対応力の向上を図った。						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	副読本を用いた授業の実施率						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	—	100	100	100	100	A
		実績	%	100	100				
		達成率	%	—	100.0%				
	成果指標	指標名	安全に配慮して主体的に行動できる児童生徒の割合						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	—	100	100	100	100	A
		実績	%	100	100				
		達成率	%	—	100.0%				
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価		
							A		
取組の成果及び評価の理由			防災教育副読本については、市内全小中学校で防災教育の際に活用しており、1学級当たり年平均13.8回活用している。(小学校平均15.3回、中学校平均11.0回) また、市内全小中学校の児童生徒へアンケートを実施した結果、副読本で学んだことを災害発生時に役立てて行動できそう、まあ役立てて行動できそうという回答が100%であった。 各学校では、総合学習の時間や業前の時間を利用し、地震や洪水などを想定した避難訓練や防災教育副読本の活用により防災意識の向上が図られた。						
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題			震災を経験していない児童生徒及び教職員が増えている中、防災教育副読本等の教材を活用した授業は重要であり、いつ発生するかわからない災害等に対し、その内容をいかに実践的なものにできるかが課題である。						
今後の対応方針			防災教育副読本等を活用した防災教育の取組を推進し、震災の教訓を風化させないように取り組んでいく。また、震災遺構を活用した防災教育も推進していく。						
令和6年度の見込み			新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費(決算額)			年度	R4	R5	R6	R7	R8	
			金額(千円)	5,329	5,697				

番号7 学校防災推進事業

学識経験者からの意見	【横江信一氏】 コミュニティ・スクールが市内の全ての小中学校に位置付けられ、中学校区の中で防災教育がさらに浸透していくのではないかと考えます。地域に応じた防災力を高めることができ、さらに継続した石巻市としての特色ある取組をお願いしたいと考えます。 防災副読本は、各学校がどのように活用するかが重要になってくると思います。学校のみならず、家庭、地域への働きかけを図った活用の仕方であったり、どう実践され地域防災につなげていくか、副読本の活用を期待しています。 また、幼稚園では、災害などの緊急時に適切な行動がとれるようにすることが、幼稚園教育要領に明記されていることを踏まえ、幼稚園、こども園と小学校との接続を踏まえ、高等学校までの一貫した防災教育につなげ、幼児期からの防災教育を推進していくことが石巻市では重要なことではないかと考えました。 【山田晴彦氏】 避難訓練、防災教育副読本等を通して、児童生徒の発達段階に応じた系統的な防災教育の実践に取り組んでいくことが必要と考えます。また、学校周辺の環境に応じた防災教育の実践は、児童生徒の防災対応能力につながっていくと思います。学校に足を運び、避難訓練や防災教育副読本による授業を参観していただいて、児童生徒や教職員の意見、感想も吸い上げ、実情を把握することが不可欠であると思います。 成果指標にあります安全に配慮して主体的に行動できる児童生徒の具体像を共通理解する必要があるのではないかと思います。そのために、副読本を児童生徒と地域の実態に即した改訂をしていくことを今後も続けていただきたいと思います。 東日本大震災を経験していない児童生徒、教職員、それから市役所職員が増加していくということは現実として受入れなければならないと思います。その上で、児童生徒の命を守る防災教育を推進していくことが不可欠であると思います。 喉元過ぎれば熱さを忘れるにあらがい、「常に備える」ことを市全体で共有していただきたいと思います。 【吉田和美氏】 副読本を活用した防災教育授業を市内全校で行っていることや、副読本の内容について、現在の状況に合ったものに改定されているなど、総合評価がAとなった点は評価できます。 しかし、成果指数の安全に配慮して主体的に行動できる生徒がアンケート調査の結果から導き出されている点については、実際の災害時に主体的に行動できるかの見極めとしては不安が大きく、見直しが必要になるのではないのでしょうか。 震災から13年が経過し、小中学生は震災当時を知りません。また、当時の現状を知らない先生方も多いと思います。震災遺構を見学することも防災教育の有効な手段になりますので、事業の一環として、今後も継続して取り組んでいただきたいと考えます。 また、大規模災害が発生した場合に備えて、避難所に指定されている学校はもちろんのこと、指定されていない学校であっても、地域の防災関係者、
-------------------	--

	消防団や自主防災組織等との連携も不可欠であると思いますので、避難訓練や総合防災訓練の際には、学校での防災活動に協力してもらえよう働きかけるなど、協働につながる事業となることを期待します。
--	--

第２期石巻市教育振興基本計画実施計画事業調査票

事業番号	8	事業名	家庭教育支援事業			旧番号	90
第２期石巻市教育振興基本計画	施策目標	4 地域ぐるみで子どもを育てる教育活動の推進					
	基本施策	1 家庭の教育力の向上					
	施策の展開	3 相互学習、相互交流の機会の創出					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	4 地域ぐるみで子どもを育てる教育活動の推進					
	施策の展開	1 地域で支える教育活動を支援する					
	事業名	家庭教育支援事業					
担当課	生涯学習課・中央公民館	事業期間	H24 ～			摘要	継続
事業概要（目的）							
子育てサポーター及び子育てサポーターリーダーなど身近な人たちによる「家庭教育支援チーム」を組織し、孤立しがちな保護者や仕事で忙しい保護者など、地域とのコミュニケーションや学習の機会等になかなか参加できない保護者や家庭に対する支援を行う。							
事業効果							
子育てに関する知識やスキルを身に付けるとともに、育児中の親同士のコミュニケーション形成を図ることにより、自信を持って子育てに取り組むことができる。このことが、家庭教育支援の新たな人材育成につながる。							
現状と課題							
家庭教育支援チームの活動が市民に知られるようになり、市内NPO等との連携により内容が充実してきている。また、親教育講座の受講後、家庭教育支援チームで活動するなど、市民による子育て支援の活性化の一助となっている。子育て中の保護者への本事業の認知度を高めるために、更なる工夫が必要である。							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
家庭教育支援チームによる子育てサロンの開催		実施					→
子育てサポーター養成講座の実施（年３回）		実施					→
親教育講座の実施		実施					→
親のみちしるべ講座の実施		実施					→
指 標 名	単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値	
活動指標	回	20	20	20	20	20	
親子参加型活動の実施回数							
成果指標	人	220	380	390	400	410	
参加者数							
備考							

実施状況及び評価(CHECK)									
令和5年度の事業実施状況			親子参加型活動（子育てサロン）：19回開催、137組344人参加 子育てサポーター養成講座：3回開催、1人受講 親教育講座：1クール（8回）実施、9人受講 親教育講座（体験）：3回実施、18人受講 親のみちしるべ講座：家庭教育支援チームを3回派遣						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	親子参加型活動の実施回数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	回	20	20	20	20	20	B
		実績	回	20	19				
		達成率	%	100.0%	95.0%				
	成果指標	指標名	参加者数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	人	220	380	390	400	410	B
		実績	人	362	344				
		達成率	%	164.5%	90.5%				
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由			子育て世帯の孤立化解消や親子の心のケア、親同士のコミュニティ形成、次世代の子育て支援・家庭教育支援を担う人材育成という点において成果が見られた。						
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題			家庭教育支援チームはボランティア組織であり、本事業を経験した世代がボランティアとして支援側に回る循環も生まれてきてはいるものの、幼稚園入園や小学校への就学を機に母親が就労することから、家庭教育支援チーム員の減少が避けられず、組織を継続するためチーム員の育成が必要である。						
今後の対応方針			活動参加者の感想や評価から、家庭教育支援へのニーズは高く、学習内容においては、「子供と一緒に」「意見交換や相談の時間がある」「家庭で再現や継続できるもの」という要望が多いことから、今後も子育て世帯の孤立化の解消と心のケア、コミュニティ形成を図ることができる事業展開を継続する。						
令和6年度の見込み			新規 継続 (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費（決算額）			年度	R4	R5	R6	R7	R8	
			金額（千円）	304	395				

番号 8 家庭教育支援事業

学識経験者からの意見	【横江信一氏】 都市化や核家族化、そして地縁的つながりの希薄化等を背景として、家庭の孤立化が指摘されるなど、社会全体による家庭教育支援の必要性が高まっています。こうした状況を踏まえ、全ての保護者が安心して家庭教育を受けることができるよう、地域人材を活用した「家庭教育支援チーム」を核とし、学習機会の確保が難しい保護者への支援手法を開発していることは大変意義深いと考えます。 さらに、育児の経験者として子育ての様々な知恵を持っている祖父母が孫の教育に参加していくことは、一層重要になってくると考えます。また、これから親になる青年を対象に、育児体験など人生の早い時期から子育てに関する学習機会を提供することも必要なことだと考えます。 【山田晴彦氏】 人口減少や高齢化が進み、地域での格差が出てきております。地域人材の養成が喫緊の課題であると思います。福祉関係と連携し、地域人材バンクを作成するなど、担当課を越えた取組が必要だと思えます。 教育委員会の事業全て、教育に関わることの根本は家庭だと思えます。家庭を支える地域や人材の発掘が今後の課題になるのではないかと思います。 【吉田和美氏】 地域ボランティア組織として、家庭教育支援チームが子育て世帯の孤立防止につながる活動を長い間継続されてきた点は非常に高く評価ができます。 歯止めのかからない少子化や早い段階から職場復帰される養育者も多いことから、子育て支援センターの利用者も減少しています。 子育てサロン「いっしょクラブ」でのイベント内容は、子育て世帯のニーズに合わせたものとして実施されていることは承知しておりますが、成果指標の目標値設定（参加者数）については、今後見直しが必要になると思われます。 また、家庭教育支援チームについては、その活動が年々減ってきているようなので、今後も減り続けるようであれば、事業継続も難しくなってくるのではないかと危惧しております。連携しているNPOも特定の団体となっているので、子育て支援課との協力体制や健康推進課の検診時の見守りなどで、活躍の場を広げられていくことを検討いただければと思います。
-------------------	--

第２期石巻市教育振興基本計画実施計画事業調査票

事業番号	9	事業名	コミュニティ・スクール推進事業			旧番号	97
第２期石巻市教育振興基本計画	施策目標	4 地域ぐるみで子どもを育てる教育活動の推進					
	基本施策	3 開かれた学校づくりの推進					
	施策の展開	2 地域の声を生かした学校運営の充実					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	施策の展開	1 学校教育の充実を図る					
	事業名	コミュニティ・スクール推進事業					
担当課	学校教育課	事業期間	R1	～	摘要	継続	
事業概要（目的）							
市内の小・中学校、市立高等学校に、学校運営協議会を設置することによって、学校や子供たちが抱える課題や、家庭・地域社会が抱える課題を地域ぐるみで解決し、子供達の健やかな成長と質の高い学校教育の実現を図るため、地域の力を学校運営に生かす「地域と共にある学校づくり」を進める。							
事業効果							
学校運営協議会を設置し、「地域と共にある学校づくり」を推進することによって、学校運営に対する地域住民や保護者の積極的な参画が促すことができ、学校や地域の課題解決、学校における教育内容の質的向上を図ることができる。							
現状と課題							
既に導入済みの学校では、学校運営協議会委員が学校運営へ参画することにより、地域人材や教育資源の活用が促進され、教育内容の質的向上が図られている。学校と地域のより円滑な連携、教育内容の充実のために「地域学校協働本部」の整備、地域支援コーディネータの人材発掘が必要である。							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
コミュニティ・スクール検討推進委員会の実施		実施					→
学校評議員から学校運営協議会への移行		実施	→				
自己評価等結果の教育委員会への報告及び保護者への公表		実施					→
指 標 名	単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値	
活動指標	校	—	31	50	48	48	
「学校運営協議会」の設置校数 (小・中・高)							
成果指標	回	—	124	200	192	192	
学校運営協議会の開催回数							
備考	令和５年度において活動指標及び成果指標を見直し						

実施状況及び評価(CHECK)									
令和５年度の事業実施状況			令和５年度は新たに市内の１３校が学校運営協議会を設置し、地域とともにある学校づくりを推進した。また、石巻市コミュニティ・スクール検討推進委員会を４回実施し、石巻市全体の取組について推進計画を検討することができた。 １１月には石巻市コミュニティ・スクール導入校による実践事例の発表を行った。						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	「学校運営協議会」の設置校数（小・中・高）						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	校	—	31	50	48	48	A
		実績	校	19	32				
		達成率	%	—	103.2%				
	成果指標	指標名	学校運営協議会の開催回数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	回	—	124	200	192	192	B
		実績	回	76	107				
		達成率	%	—	86.3%				
【事業評価基準】 達成率が１００％以上・・・A 達成率が８０％以上１００％未満・・・B 									

番号9 コミュニティ・スクール推進事業

学識経験者からの意見	【横江信一氏】 全ての学校で学校運営協議会が設置されるよう、順調に進められていると考えていますが、学校統廃合と再編も含めた中学校区を見据えた小中連携を推進していく教育の充実がこれから重要になると考えます。 さらに、本市の特色である市立桜坂高等学校にコミュニティ・スクールが設置された場合の小中との連携のあり方についても検討していただきたいと思います。その観点としては、今後、高等学校であれば、中等教育学校を意識した中高の連携したカリキュラム、つまりキャリア教育、キャリア形成につなげていくことが、大事な視点ではないかと考えますので、石巻市としての小中高の連携の在り方を具体的に示していただくと、さらに見えてくると思います。 また、地域学校協働本部の整備がありますので、学校運営協議会を設置したからいいのではなく、地域学校協働本部がどのように機能するかが今後の課題になると考えます。 今後、いのちを未来につなぐという視点から、防災教育を核にした学校運営協議会を石巻市の柱として、具体の対応をしていただきたいと思います。 【山田晴彦氏】 コミュニティ・スクールの構想、学校運営協議会の設置が始まり10数年が経過しました。 学校を地域で支えるということがどういうことなのか、もう一度、形骸化しないように話を進めていただきたいと思いますと考えています。 また、各学校のニーズが一体どこにあるのか、子どもたちが活躍する場面をどのように地域内で育んでいくのかということも考えていただきたいと思います。 また、各学校に配分される予算は少額です。事業の目的を達成するための集中的な予算配当と執行を望みます。 【吉田和美氏】 学校運営協議会の設置状況が順調に進んでいることや、各学校の運営協議会会議開催も概ね予定どおりに実施できている点については評価できます。 しかしながら、学校運営に地域が関わることへの理解度には、学校ごとの格差も出てきており、具体的な活動内容、運営体制についても課題が残るのではないのでしょうか。 各学校における事業費の使い方、生涯学習課との連携、PTAとの役割のすみわけにおいても、非常にわかりづらく、混乱することが多いと感じています。 また、コミュニティ・スクールに対しての教職員、保護者の理解も深まっておらず、学校に地域の力がどのように必要とされているのか、どのように協力できるのか判断が難しいと感じています。 学校運営においては、子どもたちが活躍できることが最も重要であり、地域の協力が子どもたちの自主性、主体性を削がないよう、基本的には見守りが求められているのではないかと考えています。中学校区のつながりが強化され、子どもたちが地域に出て活躍できる場を創出していける取組になることを期待しております。
-------------------	---

第2期教育振興基本計画実施計画事業調査票

事業番号	10	事業名	公民館地域づくり活動連携事業			旧番号	102
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	5 豊かな地域社会を育む生涯学習の推進					
	基本施策	1 生涯学習の推進					
	施策の展開	2 学習環境の充実					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標						
	基本施策						
	施策の展開						
	事業名						
担当課	石巻中央公民館	事業期間	H17	～	摘要	継続	
事業概要（目的）							
各公民館が、それぞれの地域の人財・資源を活かし、地域住民や団体との協働による地域づくりや学習機会の創造と提供に努め、地域住民相互の連帯意識の高揚と豊かな地域社会づくりに寄与することを目的とする。							
事業効果							
各公民館が、地域住民や地域で活動を行っている団体等と連携して各種事業を促進することにより、住民主体の活動を通じた相互の学び合いのしくみが構築され、豊かな地域社会づくりに寄与することができる。							
現状と課題							
現在、本市では、個人やNPO法人などにより保健福祉、教育、まちづくり、文化・スポーツ、防災、環境保全など様々な分野の活動が行われている。このような活動は、社会に貢献しつつ、自己実現を果たしていくものであり、豊かな地域社会づくりにとっても大きな役割を持つものである。 しかし、地域では、かつての地域コミュニティにあった他者とのふれあいやつながりが希薄になっており、地域活動が停滞化している状況も見られることから、様々な活動を実践している人々の知識・経験が地域で生かされる仕組みを検討する必要がある。							
事業の実施内容			年度別事業計画				
			R4	R5	R6	R7	R8
各公民館における地域づくり活動連携事業の実施			実施				➡
指 標 名	単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値	
活動指標	回	24	24	25	25	25	
公民館地域づくり活動連携事業数							
成果指標	%	70.0	70.0	75.0	75.0	75.0	
講座の定員に対する参加率							
備考							

実施状況及び評価(CHECK)																								
令和5年度の事業実施状況			本事業は、地域住民や地域で活動を行っている団体等と連携し開催する事業であることから、地域や団体に対し事業推進を試みたが、コロナ禍の影響で活動を中止し再開していない地域もあり18回の実施に留まった。 【公民館別実施状況】 <table border="0"> <tr> <td>石巻中央1回</td> <td>渡波なし</td> <td>蛇田なし</td> <td>稲井3回</td> <td>荻浜1回</td> </tr> <tr> <td>河北4回</td> <td>雄勝1回</td> <td>河南4回</td> <td>桃生なし</td> <td>北上2回</td> </tr> <tr> <td>牡鹿2回</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							石巻中央1回	渡波なし	蛇田なし	稲井3回	荻浜1回	河北4回	雄勝1回	河南4回	桃生なし	北上2回	牡鹿2回				
石巻中央1回	渡波なし	蛇田なし	稲井3回	荻浜1回																				
河北4回	雄勝1回	河南4回	桃生なし	北上2回																				
牡鹿2回																								
目標の達成状況 ※評価は下記「評価基準」により記載	活動指標	指標名	公民館地域づくり活動連携事業数																					
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価															
		目標値	回	24	24	25	25	25	C															
		実績	回	13	18																			
		達成率	%	54.2%	75.0%																			
	成果指標	指標名	講座の定員に対する参加率																					
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価															
		目標値	%	70.0	70.0	75.0	75.0	75.0	A															
		実績	%	53.0	83.3																			
		達成率	%	75.7%	119.0%																			
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F																								
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価																	
							B																	
取組の成果及び評価の理由			活動指標が前年度の「D」から「C」に、成果指標は「C」から「A」に改善した。全体的に市民ニーズに即した企画を行っていたことから総合評価は「B」とした。																					
課題・改善(ACTION)																								
事業を進める上での課題			事業を推進するに当たり、地域や団体との連携が必要であることから、コロナ禍等の影響から活動を休止している団体の再開を促す必要がある。																					
今後の対応方針			ホームページやSNSを活用し事業の周知を行うほか、個人に対する参加の呼びかけに加えて町内会などの地域の団体に対する周知を行う。																					
令和6年度の見込み			新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了																					
事業費(決算額)			年度	R4	R5	R6	R7	R8																
			金額(千円)	3,900	3,812																			

学識経験者からの意見	【横江信一氏】 公民館が地域の学習・交流の場であるとともに、地域課題の解決や魅力ある地域づくり、地域活性化の拠点としての重要な役割を果たしていると考えます。 地域住民の幅広い学習ニーズや地域が抱える課題を反映し、活発かつ魅力ある公民館活動を推進するとともに、住民自らが主体的に課題解決に取り組んでいけるよう、地域の活性化や地域づくりの取組を推進していくための中心的な役割を担う人材の発掘・育成に努めていただきたいと思います。 また、学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有し、一体となって児童生徒の健全育成や学校・地域の課題解決、地域の教育力の向上や活性化に向け取り組むとともに、子育て世代が気軽に参加できるよう、更なる活動の充実を図っていただくことを期待しています。 【山田晴彦氏】 この事業は、豊かな地域社会づくりにとって不可欠なものであると思いますが、震災後、地域によって格差が生まれているということも事実ではないかと思います。 その格差を埋めるためには、各公民館の活動を、その地区だけのものにして、各地区の公民館の枠を越えた周知と参加者を募ることが必要ではないかと考えます。 さらに、各事業においては、人口減少のために地域人材を発掘することが困難な状況になっていると思われますので、地域を越えた人材発掘も必要ではないかと思います。 【吉田和美氏】 総合評価はBとなっていますが、地域の人財、資源を活かしコミュニティづくりを目的とした、ニーズに即した企画が実施されている点は高く評価できます。 また、高齢者の孤立防止の一助を担う活動となっているようにも感じました。 しかし、公民館活動についての地域理解が低く、現状では会議やサークル活動などで利用する施設との認識にとどまっている方も少なくないように思います。 公民館が担う役割は多岐にわたっておりますので、今後は、社会福祉協議会との連携や体力向上事業へのジュニアリーダーの派遣、コミュニティ・スクール地域コーディネータの方々とのつながりを持つことなども可能ではないでしょうか。地域コミュニティの再生、新たなまちづくりにおいて中心的な組織となっていただきたいと思いますと考えております。
-------------------	--

第2期石巻市教育振興基本計画実施計画事業調査票

事業番号	11	事業名	石巻市博物館企画展・特別展事業			旧番号	108	
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	5 豊かな地域社会を育む生涯学習の推進						
	基本施策	2 文化芸術活動の推進						
	施策の展開	1 文化芸術に触れる機会づくりの推進						
【総合計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち						
	基本施策	5 豊かな地域社会を育む生涯学習の推進						
	施策の展開	1 生涯学習環境を強化する						
	事業名	石巻市博物館企画展・特別展事業						
担当課	博物館	事業期間	R3	～	摘要	継続		
事業概要（目的）								
企画展を通じて、博物館所蔵資料や石巻市に関する調査研究の成果を踏まえ、学術的な視点から石巻市の魅力を市民にわかりやすく発信し、市民の地域に対する理解を深める。また、時宜にかなった特別展を開催することで、市民の知的探究心を満たす。								
事業効果								
企画展・特別展を開催し、市民に文化・芸術に触れる場を提供することで、石巻市の歴史・文化に対する理解を深めるとともに、心の豊かさの醸成が図られる。								
現状と課題								
市民が地域の歴史・文化を理解し、自分自身のルーツを確かめることは、地域で生きていくことのモチベーションにつながるとともに、心の豊かさを抱くきっかけになると考える。石巻市博物館において展示活動を開催することで、市民に石巻市の魅力を伝え、市内から地域を盛り上げていく必要がある。								
事業の実施内容			年度別事業計画					
			R4	R5	R6	R7	R8	
特別展又は企画展の開催			実施					▶
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値	
活動指標		人	—	5,100	5,200	5,300	5,400	
観覧者数								
成果指標		%	81.0	82.0	83.0	84.0	85.0	
展示内容に対する満足度								
備考	令和5年度において活動指標を見直し							

実施状況及び評価 (CHECK)									
令和5年度の事業実施状況			○第5回企画展「民具のデザイン図鑑ーくらしの道具から読み解く造形の発想ー」 令和5年5月27日（土）～8月20日（日） 観覧者 1,651人 満足度 88% ○第6回特別展「学んで、旅して、たのしむ浮世絵ー広重美術館コレクションー」 開催期間：令和5年9月2日（土）～10月29日（日） 観覧者 2,284人 満足度 91% ○第7回企画展 高砂淳二写真展「地球と出会う旅」 開催期間：令和5年12月2日（土）～令和6年2月25日（日） 観覧者 5,919人 満足度 94%						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	観覧者数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	人	—	5,100	5,200	5,300	5,400	A
		実績	人	4,451	9,854				
		達成率	%	—	193.2%				
	成果指標	指標名	展示内容に対する満足度						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	81.0	82.0	83.0	84.0	85.0	A
		実績	%	88.3	91.0				
		達成率	%	109.0%	111.0%				
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載								総合評価 A	
取組の成果及び評価の理由			令和5年度は、予定どおり企画展2本、特別展1本を開催することができた。また、各展示会において目標値を上回る観覧者数と満足度を得ることができ、市民に対し文化・芸術に親しむ機会を提供し、知的探求心を満たすことができたため、総合評価Aとした。						
課題・改善 (ACTION)									
事業を進める上での課題			所蔵資料を活用する企画展については、資料情報を集約しきれていないことから、準備と資料整理を同時並行で進めなければならない。 また、歴史分野等は展示内容に興味を持つ方が市内外から足を運ばれるが、観覧者数は多くない。一方、世代を問わない展示（著名な美術品や写真、絵画など）については、多くの集客が見込まれるものの経費も高額となる。						
今後の対応方針			広告宣伝の有効活用を検討しつつ、博物館の認知度を上げ、入館者数の増加に向けて情報発信を強化する。また、所蔵資料や石巻の歴史・文化に関する調査研究の成果を踏まえつつ、市民のニーズに応じた企画を行い、満足度の向上を目指す。						
令和6年度の見込み			新規 継続 拡充 縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費（決算額）			年度	R4	R5	R6	R7	R8	
			金額（千円）	12,051	17,537				

学識経験者からの意見	【横江信一氏】 市民に対して文化・芸術に親しむ機会を提供し、知的探求心を満たすことができたことで、事業目標は十分達成されたものと考えます。 新型コロナウイルス感染症拡大を経て、ポストコロナの時代における博物館は、デジタル技術等を活用した新たな鑑賞方法により、機会の充実や持続的な活動のための予算確保、新たな収益モデルの模索等、「新たな日常」における在り方を追求することが求められています。 さらに、地域に関わる資料の収集と保存、学芸員による調査研究、そして外部機関や市民団体とのネットワーク強化によって、子どもたちや市民が知的好奇心や自然、文化芸術への学びを深めることができる質の高い博物館となるよう期待しています。 【山田晴彦氏】 本市には縄文文化、毛利コレクション等の県内外に誇れる文化財産が豊富に存在しています。民間放送局の地域コマーシャルコンテストなども使って広く発信していったらいいかと思いました。 博物館の常設展示や特別展示の情報が市民にも広く伝わっていく方法を工夫していく必要があるのではないかと思います。 公共施設だけでなく、飲食店やレジャー施設などにもパンフレットやポスターを置いていただき、そのかわりに公所にも、飲食店の情報パンフレットを置くなど、ウィンウィンの関係を、ぜひ構築していただければと思います。 また、入場料の減免や市のバスを使って小中学生を博物館に呼び込むなど、本市の歴史や文化に興味を持つ児童生徒を増やしていただけたらと思います。 さらに、市全体でインバウンドの活用を図る施策を実現してほしいと思います。例えば、食文化・スポーツ・歴史文化・震災遺構等をつなぐルートをつくり、巡回バスなどを走らせるとか、市内外に広報して、遠足や修学旅行のルートとして、他の市町村の学校に宣伝するなど、担当課を越えた取組も望んでいます。 【吉田和美氏】 観覧者数、展示内容の満足度の評価において、いずれもAとなり、多くの方々に石巻の歴史や文化を知る機会を提供していただいたことを評価いたします。ホームページから石巻市博物館を紹介するオンラインツアーのムービーを視聴しましたが、とても魅力的な内容となっており、もっと広く周知されていくことを期待します。 課題にもあがっていた所蔵品の数が膨大で管理、整理に時間と経費が掛かる点においては地道な取組となることと想像できますが、石巻市の貴重な財産になりますので事業費を確保していただき、充実したものになっていくことを期待します。
-------------------	---

	また、子どもたちが歴史的価値のある本物に触れる機会を創出することは大変価値のある経験になり、石巻に愛着を感じられるきっかけにもなると思います。子どもたちの成長段階に合わせて企画展を実施するなどの工夫があると、足を運ぶ家庭も増えるのではないかと思います。イベント施設に併設されている利点を活かすことで、この事業をますます発展させていただきたいと思います。
--	---